

当クリニックの分娩の体制について ～特にスタッフ体制について～

首都圏のある産婦人科専門病院において、医師も助産師もない状態で看護師が助産業務をしたということが、大ニュースになっております。

問題の根底には、産科医不足、助産師不足、看護師不足、等々がありますので、話は複雑なのですが、それはさておき、当クリニックで分娩を予定している皆様にとっては、当クリニックの体制がどうなのかということが最大の関心事だと思いますので、ご説明申し上げます。

当クリニックの助産師は、総勢10名です。

婦長以下、常勤助産師が7名、看護部顧問も含めてベテランの非常勤助産師が3名です。

県内でも屈指の体制ですし、おそらく全国的にもかなり恵まれた状況だと思います。

皆様の大切なお産の際には、夜間でも休日でも助産師が必ず立ち会って、心をこめてお世話させていただきます。

私も勿論立ち会います。私が不在の場合は、新潟大学等の代診医師が責任を持って立ち会います。(私も学会や各種の研究会に出席する必要がございますし、多忙時にはリフレッシュのために休息を取らせていただく必要もありますことを、なにとぞご理解くださいますようお願い申し上げます。)

なお、緊急帝王切開等の緊急時には、応援医師を依頼して医師複数体制で診察します。

よって、開院以来約9年間、私がひとりきりで帝王切開したことは一度もありません。

看護師・准看護師は、分娩第 期～ 期までの、看護業務と助産師の助手業務をいたします。

夜勤体制は、2名プラス拘束勤務1名です。その3名の中に1名以上の助産師が必ず含まれます。

以上のように、当クリニックの分娩体制は、大きな総合病院の産科病棟にも勝るとも劣らない充実した体制です。

よって、皆様のお産の際には、通常下記のような状況になります。

お産が始まって入院されると、まず赤ちゃんの心音検査と産道の状況の診察をします。医師もしくは助産師が診察します。看護師・准看護師はその助手業務をします。

分娩経過中は、特に問題がなければ、助産師が中心になって、看護師、准看護師とともに、チームとして産婦さんとおなかの赤ちゃんのお世話をします。

分娩経過に問題があれば、いつでも私に報告がきます。

経過が正常であれば、助産師がお世話の中心になりますが、何らかの異常所見があれば私(もしくは代診医師)が説明します。

いよいよ、赤ちゃんが生まれる際には、正常分娩であれば助産師が中心になってお世話します。医師は母子の異常所見の有無を診察します。看護師・准看護師は分娩助手業務として補佐します。

以上のように、チームとして最低でも3～4名以上のスタッフが皆様のお世話をします。

どうぞ安心ください。そして、「安らかな良いお産」を目指して頑張りましょう。

平成18年8月25日(院長:記)